

秋田県市町村未来づくり協働プログラム

井川町プロジェクト「子育てから始める井川の未来づくりプロジェクト」における
事後評価調書

1 プロジェクトの目的

子育て交流広場と放課後児童クラブの複合施設「子育て支援多世代交流館みなくる」（以下「みなくる」という。）の整備や、保健師がコーディネーターとして子育て期の悩みや相談に対応する「井川版ネウボラ」の実施により、地域との関わりを通じて出産前から義務教育期まで切れ目なく子育て世代を支える施策を推進するとともに、日本国花苑の機能の向上を図り、地域資源を活用した町内外との交流を促進することにより、安心して子育てできる町を目指す。

2 プロジェクトの概要

策定年月日	実施期間	井川町総事業費 (千円)		県事業・協働事業費 (千円) B	総事業費 (千円) A + B
		A	交付金 (千円)		
H28. 3. 25	H28～R1	394, 041 (349, 000)	150, 000	1, 428	395, 469

※井川町総事業費欄の（ ）内は計画値

【プロジェクトを構成する事業】

○町実施事業

事業名	総事業費 (千円)	うち交付金 (千円)	実施年度
多世代交流館の整備	293, 089	110, 500	H28～R1
多世代交流館利用促進事業	25, 667	0	H28～R1
「井川版ネウボラ」の実施	24, 868	3, 000	H28～R1
日本国花苑を中心とした交流の促進	50, 417	36, 500	H28～R1
計	394, 041	150, 000	

○県実施事業

事業名	総事業費 (千円)	うち交付金 (千円)	実施年度
子育て交流広場及び放課後児童クラブの運営に対する支援	上記、町の多世代交流館利用促進事業に含まれる		H28～R1
井川版ネウボラ及び放課後児童クラブの職員に対する研修の実施	全県域において実施		H28～R1
読書推進関連事業のコーディネート及び「読んだッチ・リレー文庫」の配置	0	0	H28～R1

○協働実施事業

事業名	総事業費 (千円)	うち交付金 (千円)	実施年度
日本国花苑を活用した南秋地域の子 ども交流事業	1,428	0	H28～R1
計	1,428	0	

3 プロジェクトの成果指標と達成状況

指標名	基準値 (H26年度)	目標値 (R1年度)	実績値 (R1年度)	達成率 (%)
①子育て交流広場の利 用親子組数	907組	1,800組	2,604組	144.7
②子育て環境の満足度	17.6%	50.0%	55.2%	110.4
③日本国花苑利用者数	8.3万人	10万人	12.3万人	123.0
④利用者満足度	—	80.0%	94.3%	117.9

※②子育て環境の満足度は、町が令和元年5月から6月までに、町に居住する未就学児及び小学生を持つ保護者に対して、井川町子ども・子育て支援事業計画【第2期】を策定するために実施したアンケート調査の結果による。

※④利用者満足度は、町が平成31年4月から令和元年8月までに、「みなくる」及び日本国花苑の利用者に対して実施したアンケート調査の結果による。

4 その他参考となる事項

【成果指標外の成果】

○井川版ネウボラの相談体制の充実について

保健師を2名から3名に増員したほか、毎週水曜日は「みなくる」に保健師が訪問し、相談業務を行っている。

(単位：件)

相談件数	電話	来庁	訪問	計	計のうち町外
H30	29	85	18	132	27
R1	24	66	25	115	3

○地域交流について

平成28年度及び29年度は日本国花苑と秋田県立大学を会場に八郎湖流域の小学生を対象とした子ども交流会を開催した(延べ43人参加)。水辺の生き物を探し、顕微鏡で調べるなど体験学習を行った。

広域的な交流を促すため、平成30年度には県内の小学生を主な対象として日本国花苑の彫刻スケッチコンテスト(応募数67点)を、令和元年度には日本国花苑フォトコンテスト(応募数1,086点)を開催した。

平成30年度には子育てサークルによる親子交流イベント(乳児は「みなくる」で、幼児及び児童は日本国花苑で交流)を開催し、町内外から66名が参加した。

5 民間アドバイザーの意見

(民間アドバイザー：公益財団法人鹿角市子ども未来事業団

鹿角市児童センター副館長 石井 亜紀子 氏)

(1) 利用者満足度を高める新たな取り組みについて

「みなくる」の受付の集計結果により、利用者全体の4割弱は町外からの利用者であることから、みなくるが井川町や近隣の子育て世代の家庭に広く周知されていることがわかる。また、プロジェクトの成果指標の利用者満足度は目標値に達し、「みなくる」と日本国花苑の利用者から好評を得ている。

しかし、今後リピーターを増やしていくために、施設内の玩具や、場のレイアウトの定期的な入れ替えなどで目新しさを感じてもらい、飽きさせないような工夫が必要である。もし、施設の内装や遊具を変えていくのであれば長期的な計画も必要である。

事業としては、今の時代、時期にあったものか、母親たちの興味関心がどこにあるのかなど、利用者からのアンケートはもちろんのこと、利用者の声を日々の何気ない会話から拾い上げ反映させていくのもよいと考えられる。継続していくべきものは継続し、切り捨てるものと取り入れるものを見極めることが大切である。

町民の子育てスタイルに合わせて、一時預かりの希望が今後増えていくようなら、ファミリー・サポート・センター事業を行い託児に力を入れることも効果的と考える。冠婚葬祭や仕事の時だけでなく、親のリフレッシュのために利用しても良いなど、理由を問わず予約なしで子どもを預けられるシステムは、鹿角市でも大変喜ばれている。親にとってはもちろん、リフレッシュして子どもとまた向き合えるのは子どもにとってもよい影響を与えることに繋がる。

(2) 今後の読書ルームの活用について

鹿角市の花輪図書館では『夜の図書館 よるとしよ』が年間2、3回の頻度で行われている。時間は19時から21時までで、大人のための読み聞かせ、ビブリオバトル、LIVE IN LIBRARY、寄席などテーマは様々だが、仕事帰りの女性男性はもとより幅広い世代の人達で賑わっている。日中足を運べない人も、この時間であればと興味のあるテーマに惹かれ訪れ、合間に本を手にとったり、図書館独特の空間を楽しんだり、本に親しみを持つきっかけにも繋がり、このような取り組みが、多世代交流の場にもなり得るので実施を勧める。

(3) 日本国花苑からみなくるの導線、日本国花苑とのコラボ事業について

自分の住んでいる所の良さに気づかず過ごしている人が少なからずいると思われるため、「みなくる」で行っている事業を日本国花苑に移してそのまま行うことも必要と考える。例えば『おでかけみなくる』等の取り組みはどうか。母親がみなくるの行事に参加し、今まで気づけなかった日本国花苑のいい所や居心地の良さを感じ、今度は家族や友人と来てみようという、次につながる良い効果をもたらす事業になると考える。

また、『みなくる花壇』を作り、定期的に日本国花苑に足を運び親子で植物の世話や観察を続けることで親しみを持つきっかけづくりをし、育てた草花を使った親子向け、母親向けの製作などの事業もおもしろいと思う。「自分達が育てたもの」という視点で捉えることで思い入れや愛着も湧くのではないかと考える。

(4) 多世代交流について

現在、「みなくる」で行なわれている多世代交流の参加者は女性が多いとのことであるが、「お花」「アロマ」など、設定が女性向けの傾向がみられる。そこで、環境が素晴らしい日本国花苑を利用して、パークゴルフやウオーキング、野外ヨガなどのスポーツなども取り入れ、男性の参加

やより広い年代層へのアプローチを検討することも大切である。その際、子育て中の人たちが安心して参加できるよう託児のシステムを整える必要がある。

6 全体評価

多世代交流館の整備、多世代交流利用促進事業については、平成 30 年に子育て交流広場、読書ルーム、放課後児童クラブルームを備えた「みなくる」を整備し、その利用促進として、子育て世代、多世代交流向けのイベントの実施や、小学生等を対象とした読書ワークショップを開催するなどにより、町内外から多くの利用者がある。成果指標である子育て交流広場の利用親子組数は、令和元年度 2,604 組となり、目標値 (1,800 組) を達成している。

「井川版ネウボラ」の実施については、子育て家庭に対し、「お誕生クーポン」の進呈、チャイルドシートの購入費や各種予防接種費用の助成、高校生までの医療費無料化、高等学校等通学費助成など、子育て家庭へ様々な支援を実施するとともに、子育て支援サイトの開設や、「井川町子育て応援ブック」の発行により、こうした支援事業を含めて子育て世代向けの情報を発信しているほか、保健師が毎週水曜に「みなくる」に訪問し、子育て家庭からの相談等を受け付けており、町民が気軽に相談しやすい環境を整えている。

日本国花苑を中心とした交流の促進については、苑内機能向上のため、チビッコ広場のコンビネーション遊具をリニューアルするとともに、案内看板を設置し、平成 30 年度には彫刻スケッチコンテスト、令和元年度にはフォトコンテストを開催しており、コンテスト受賞作品の町内施設への展示により、足をとめ、作品を眺める施設利用者の姿が多く見受けられ、国花苑を絵画、写真という作品を通じて、様々な角度から知っていただくことができた。また「ふるさと教育」の一環として、井川義務教育学校 7 年生が、前年度に自身らが作成した町の紹介パンフレットを用いて観光客に対し、町の PR を行い、生徒が町の魅力を再認識するとともに、説明を受けた観光客からは町をよく知ることができたと好評を得た。こうした取組により日本国花苑の来苑者数は、令和元年度は 12.3 万人となっており、成果指標の目標値 (10 万人) の達成という成果をあげることができた。

7 今後の推進方針

民間アドバイザーの意見や全体評価を踏まえ、次のとおり推進するものとする。

(1) イベント等の内容について

「みなくる」と日本国花苑の利用者へ実施したアンケート調査の結果では、各施設の利用者満足度については高い評価を得ることができた。この満足度をより高めていくため、定期的にアンケート調査を実施することにより、利用者のニーズをしっかりと把握し、イベント参加要件や開催時間帯等を工夫し参加者の幅を広げることや、託児を行うなど、安心して参加しやすいイベントや取組を企画し、その実施により一層の利用者数の増加と利用者満足度の向上を図る。

(2) 日本国花苑と「みなくる」の共同事業について

アドバイザーから意見のあった「おでかけみなくる」「みなくる花壇」の事業等を参考にし、日本国花苑と「みなくる」の共同事業を実施し、利用者満足度の向上とともに、日本国花苑と「みなくる」の認知度向上を図る。

【プロジェクトチーム構成員】

井川町	総務課、健康福祉課、産業課、教育委員会
秋田県	保健・疾病対策課、総合政策課、地域づくり推進課、秋田地域振興局 次世代・女性活躍支援課